



犬 舎

編集部 住宅の都合で、飼えなくなったから
 といって、オリバーさんのところに連絡があ
 るんですか。
 オリバー たくさんあります。
 編集部 中には、連絡もなしで捨てていく人
 もいるわけでしょう？

オリバー そうです。相談してくれた人には、
 アドバイスします。

編集部 こも預かる限界がありますもの
 ね。ですから、アドバイスを受けて、個々の
 人がそれなりの対応ができるのが、先生に
 とっても幸せですし、犬にとっても一番幸せ
 なことなんです。結局、犬をモノとして考
 えている人が、こういうことをするわけす
 よね。

オリバー 飼えなくなるんだったら、飼わな
 かったらいい。都合がいいときに飼って、都
 合が悪くなったら捨てる。そういう人は困り
 ます。

動物はペットではない

編集部 なぜこういうことを始めようと思わ
 れたのか、一番の動機をお聞かせください。
 オリバー 私は、子供のときから動物が好き
 でした。最初、日本で道を走っている犬を見
 たときに、みんな飼い犬だと思ったんです。
 でも、だんだん捨てられた犬だということが
 わかってきたんです。それで、こういうこと
 を始めようと思いました。

(近くに住む甲斐尚子さんも、ボランティア
 で同じような運動をしている)

オリバー 甲斐さんも、自分の家で、犬とか
 猫を預かっています。

甲斐 本来に無責任な飼い方をされてる結果
 がここのであって、うちなわけですね。オリバー
 さんの知名度が上がってこられましたから、
 困ったのでどうしようかというときに、結果
 的に、「オリバーさんのところに行ったら？」
 とか、「猫だったら甲斐さんのところに行っ
 たら？」とかいうことになるんだと思うん
 です。

編集部 そういう現状に対して、どうい
 うことを一番訴えたいですか。

甲斐 命ということに対する認識ですね。世
 間一般の方がもう少しでいいから考えてもら
 えるような状況になればいいなと思ってま
 す。たとえば、能勢だって、「命の村」的な
 ものになれば、大成功だと思います。

犬であっても、猫であっても、体の不自由
 な方でも、知能の発達障害のある方でも、そ
 ういう方たちがつまはじきされないような、
 「村」という形で態勢が盛り上がっていけた
 ら、それで大成功だと思います。